鉄道運転事故等の情報について
（令和４年度）

令和５年１１月

東北運輸局鉄道部

目　次

はじめに・・・１

１．鉄道運転事故発生件数及び死傷者数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２．踏切障害事故・・・４

３．鉄道人身障害事故・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

４．インシデント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

５．輸送障害・・・１１

はじめに

国土交通省では、全国で発生した鉄道運転事故等の情報について、「鉄軌道輸送の安全に関わる情報」として毎年度公表しております。

この「鉄道運転事故等の情報」は、鉄道事故等報告規則に基づき東北運輸局に報告があった鉄道運転事故、輸送障害等をまとめたものであり、東北地方の統計の掲載となっております。

※全国の統計、国が行っている安全対策等については以下のホームページを御覧ください。

鉄軌道輸送の安全に関わる情報（国土交通省ホームページ）

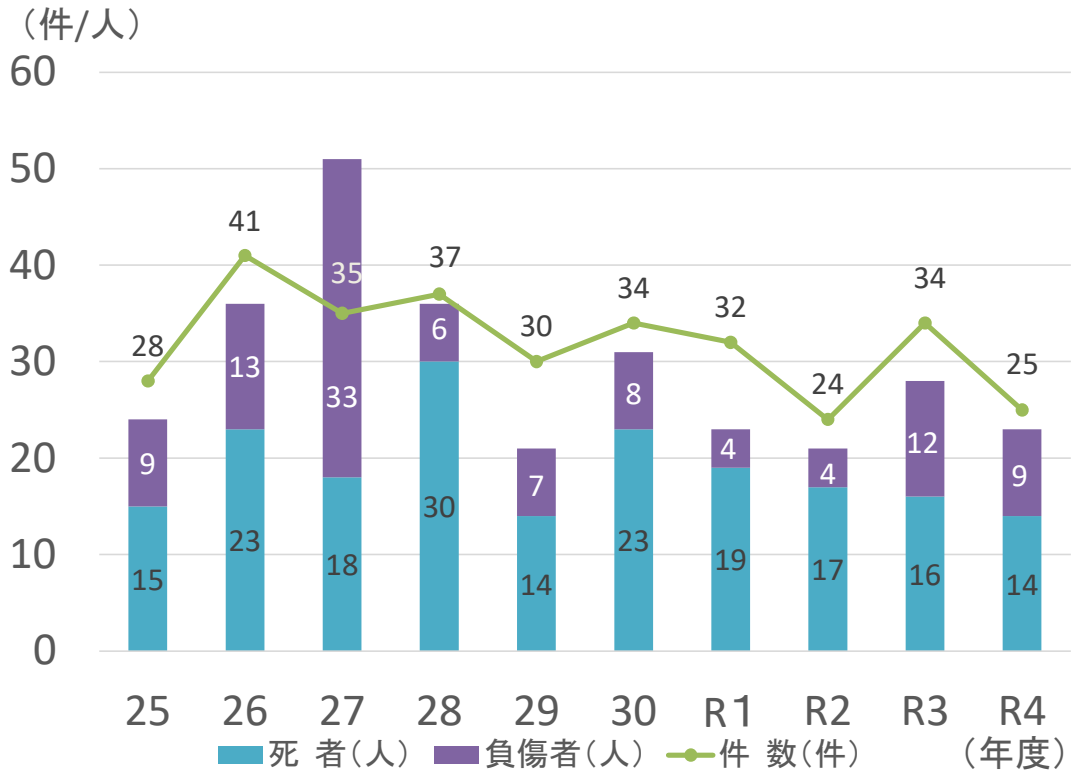
http://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo_tk8_000001.html

１．鉄道運転事故発生件数及び死傷者数の推移（東北地方）

（１）鉄道運転事故の推移

この１０年間の鉄道運転事故の発生件数は２０件前半～４０件前半で推移しています。令和４年度の発生件数は２５件で、対前年度１１件（２６．５％）の減少となっています。

令和３年度にはＪＲ東日本の東北新幹線及び大船渡線で列車脱線事故が発生し、東北新幹線の列車脱線事故では６名の方が負傷しました。



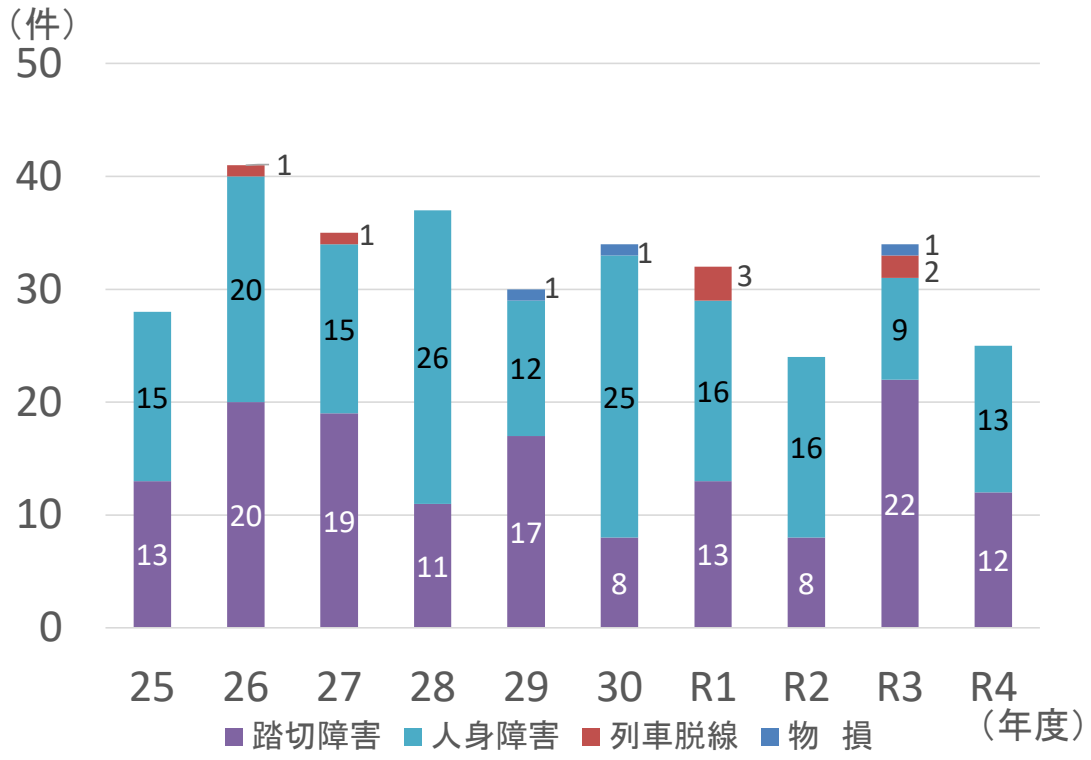
※　自殺を起因とする事象については、鉄道運転事故に該当しません。
　　ただし、自殺と断定できないものについては鉄道運転事故としています。

（２）鉄道運転事故の内訳

鉄道運転事故は、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故及び鉄道物損事故に分類されます。

各事故の発生状況は下のグラフのとおりです。なお、令和４年度は列車脱線事故及び鉄道物損事故の発生はありません。

また、平成１２年度以降、列車衝突事故、列車火災事故及び道路障害事故の発生はありません。

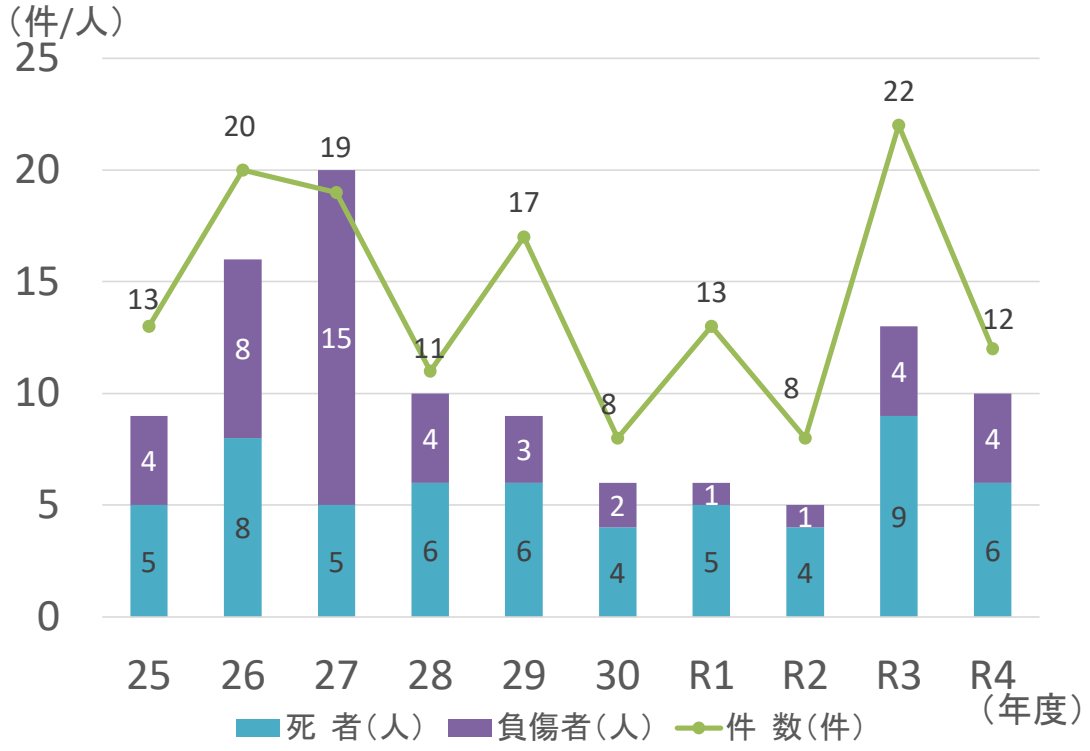


２．踏切障害事故（東北地方）

（１）発生件数と死傷者数の推移

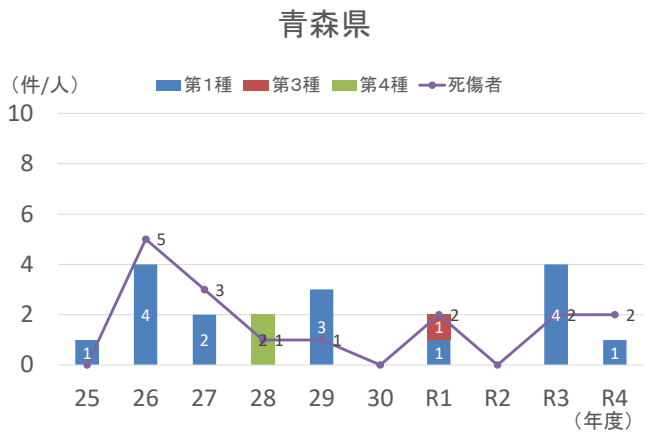
令和４年度の踏切障害事故は１２件発生しており、鉄道運転事故全体（２５件）の約４８．０％を占めています。対前年度１０件の減少となっています。

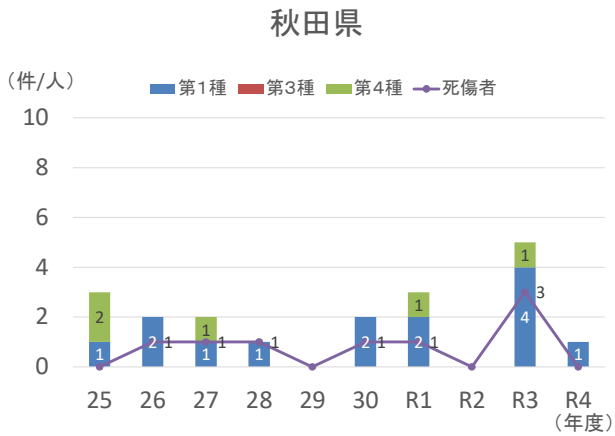
なお、踏切障害事故１２件の原因については、「直前横断」が７件（５８．３％）、「側面衝突」が３件（２５．０％）、「落輪・停滞」、「限界支障・その他」が各１件（８．３％）となっています。

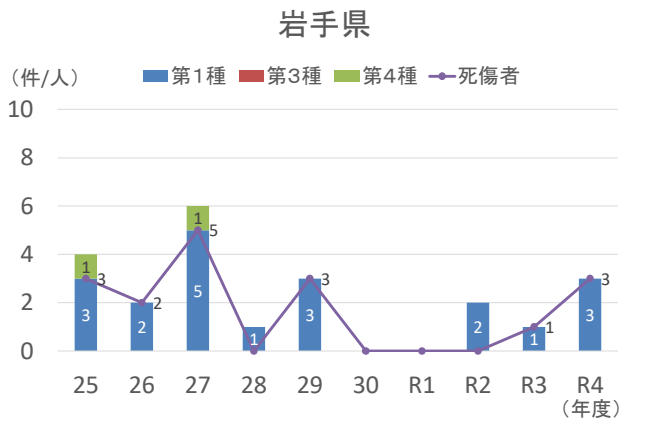


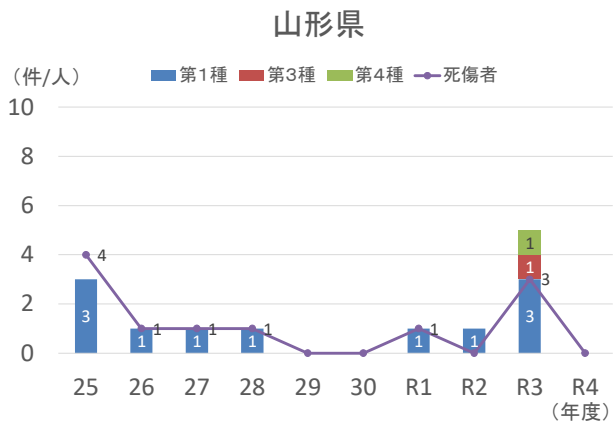
※　踏切障害事故とは、踏切道において列車又は車両（以下「列車等」という。）が道路を通行する人又は自動車等と衝突・接触した事故をいいます。

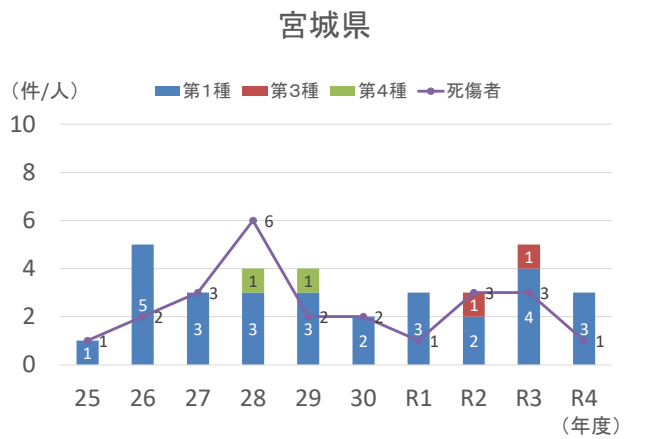
（２）踏切種別別の踏切障害事故件数と死傷者数（県別）

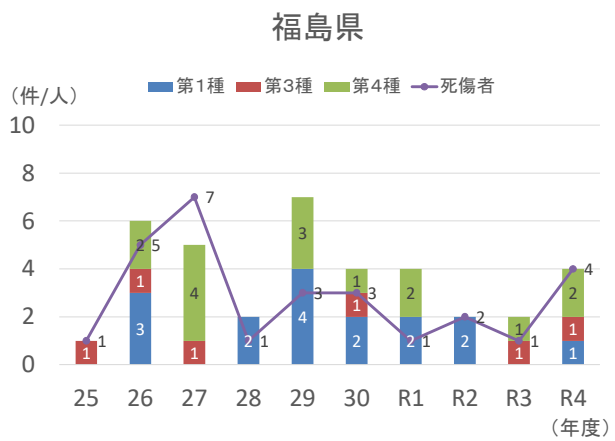












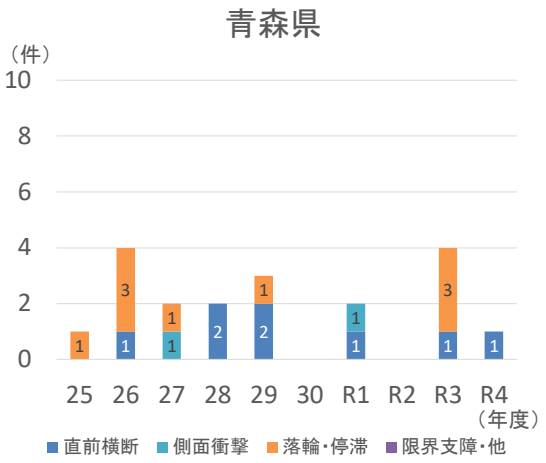
グラフの凡例に記載している、用語の意味は以下のとおりです。

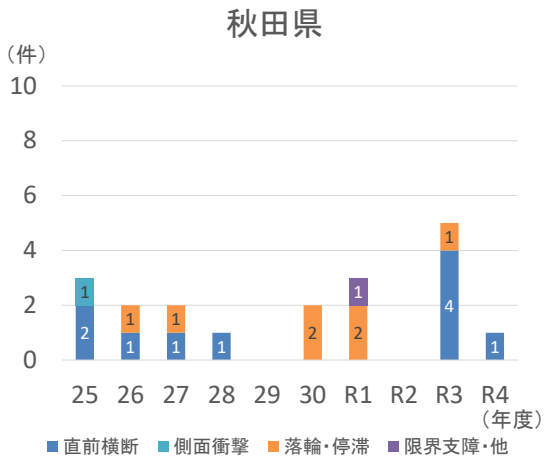
第１種：第１種踏切道。踏切遮断機等により道路を遮断する踏切道。

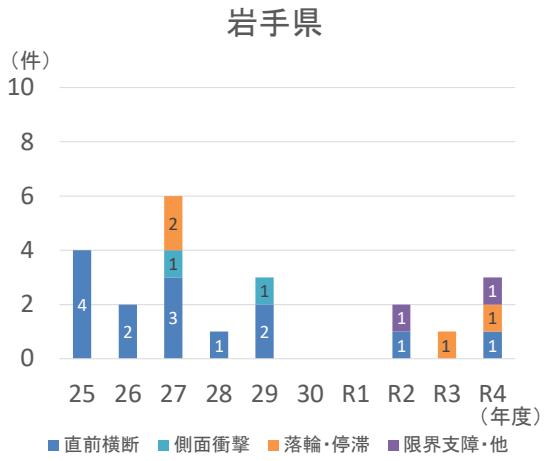
第３種：第３種踏切道。遮断機は設置しておらず、警報機のみ設置している踏切道。

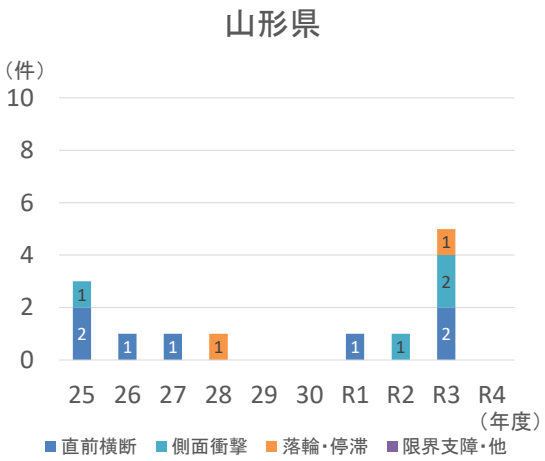
第４種：第４種踏切道。遮断機も警報機も設置していない踏切道。

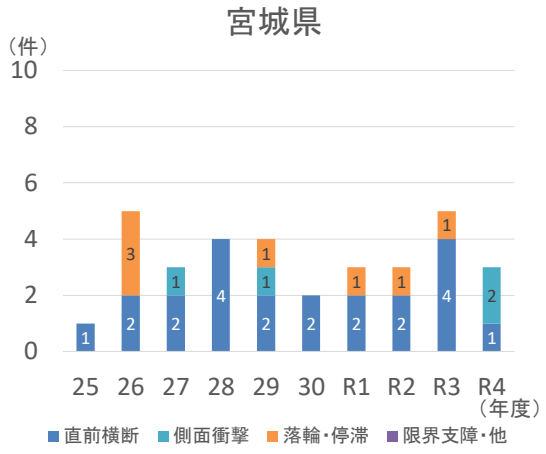
（３）原因別の踏切障害事故件数（県別）

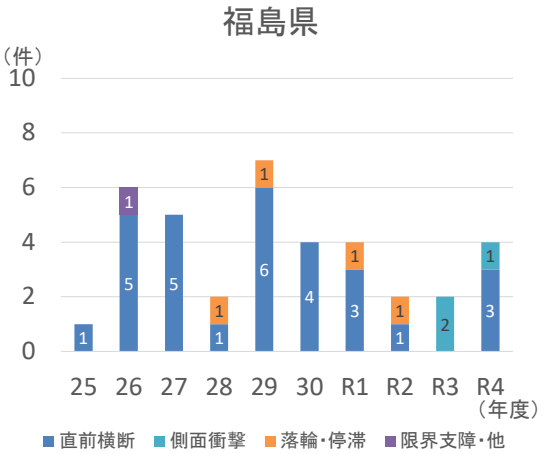












グラフの凡例に記載している、用語の意味は以下のとおりです。

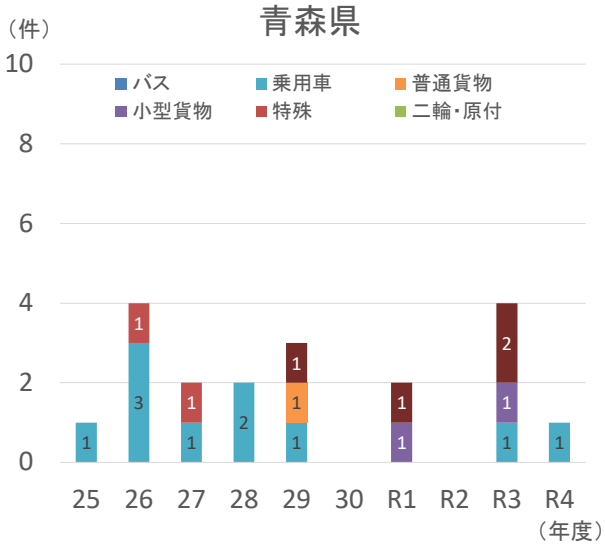
直前横断　　：踏切道において、列車又は車両（以下「列車等」という。）が接近しているにもかかわらず、踏切道を通行しようとする自動車、二輪・原動機付自転車又は軽車両等（以下「自動車等」という。）若しくは人が、無理に又は不注意に踏切道内に進入したため列車等と衝突したもの。

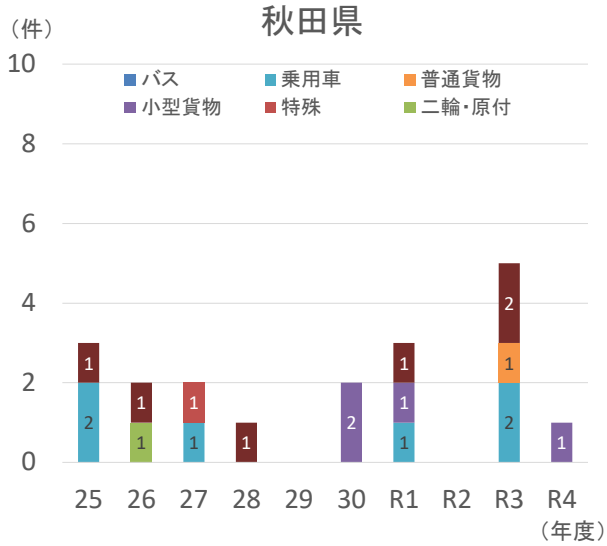
側面衝撃　　：自動車等が踏切道を通過中の列車等の側面に衝突したもの。

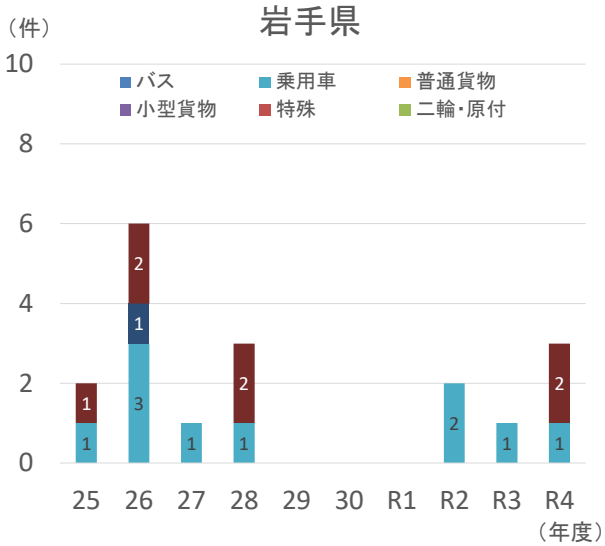
落輪・停滞　：自動車等が落輪、交通渋滞、自動車の運転操作の誤り等により、踏切道から進退が不可能となったため列車等と衝突したもの。

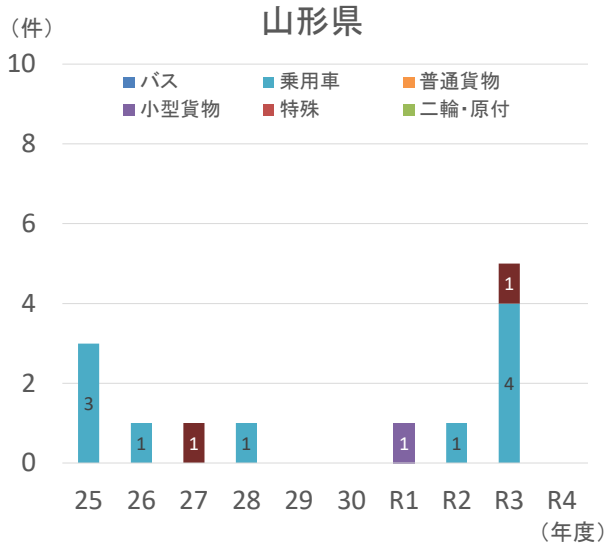
限界支障・他：人等が踏切道の手前で停止した位置が不適切であったために列車等と衝突したもの。

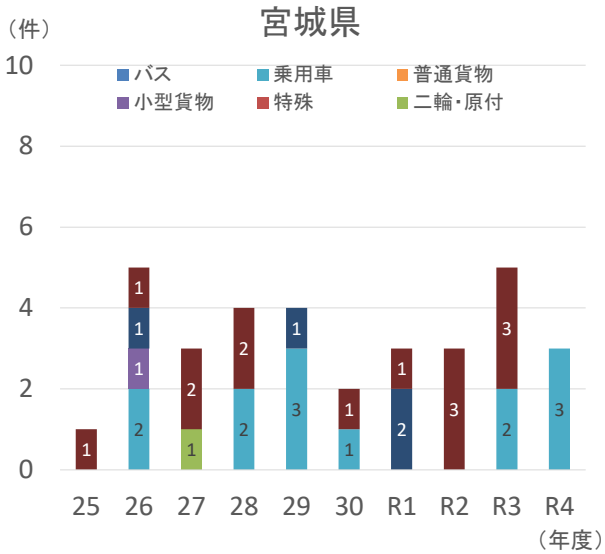
（４）衝撃物別の踏切障害事故件数（県別）

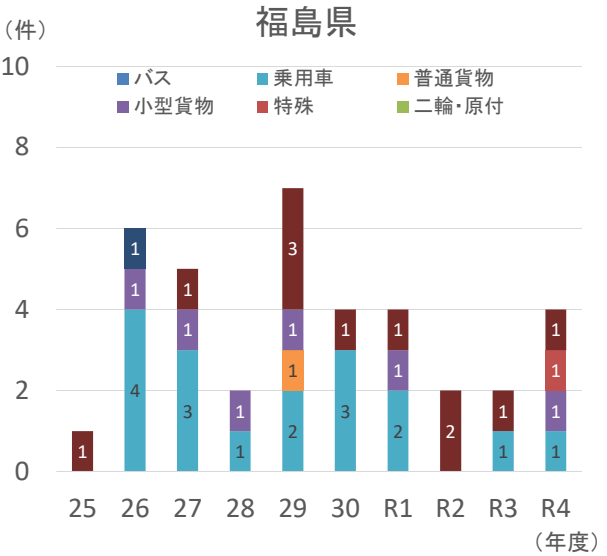












グラフ・凡例の分類は以下のとおりです。

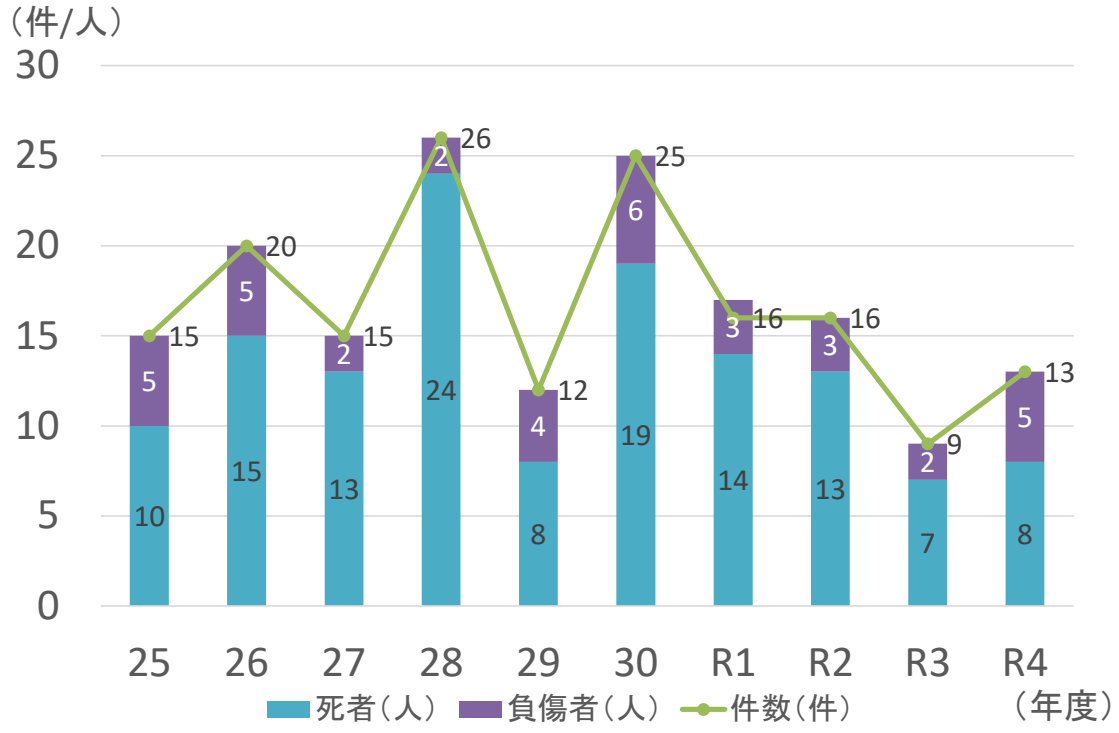
特殊　　：農耕トラクタ等です。「８ナンバー」の特種は含んでいません。
乗用車　：普通、小型、軽の乗用自動車です。
小型貨物：小型、軽の貨物自動車です。
普通貨物：小型、軽以外の貨物自動車です。

３．鉄道人身障害事故（東北地方）

（１）発生件数と死傷者数の推移

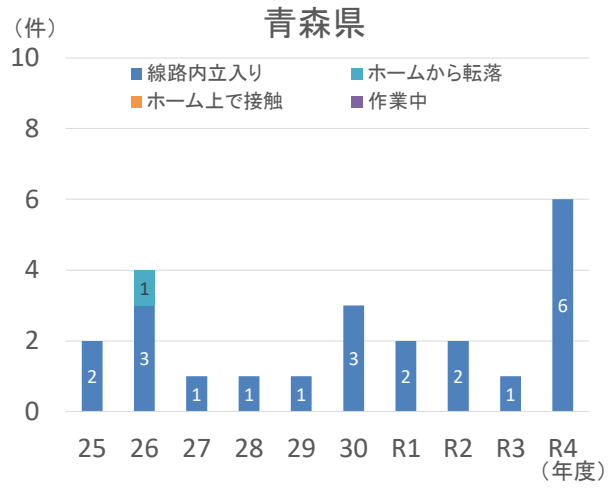
令和４年度の鉄道人身障害事故は１３件発生しており、鉄道運転事故全体（２５件）の約５２．０％を占めています。

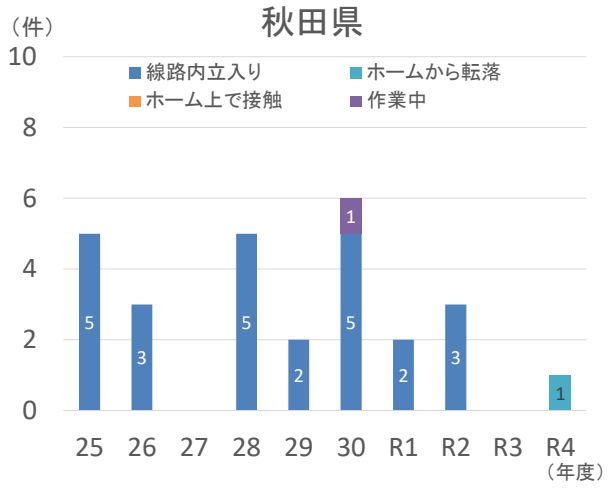
鉄道人身障害事故１３件のうち、１１件が「線路内立入り」となっています。

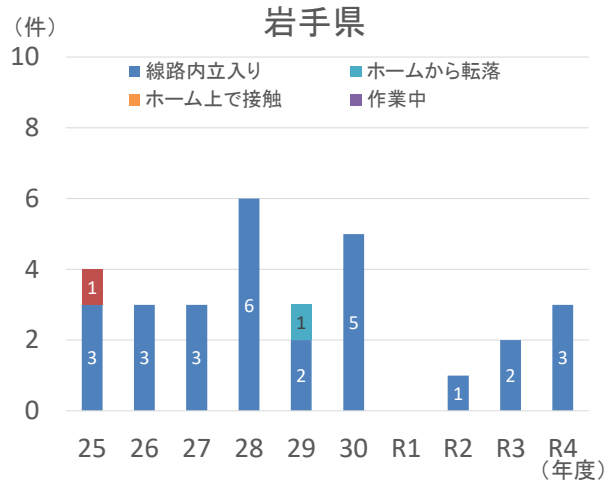


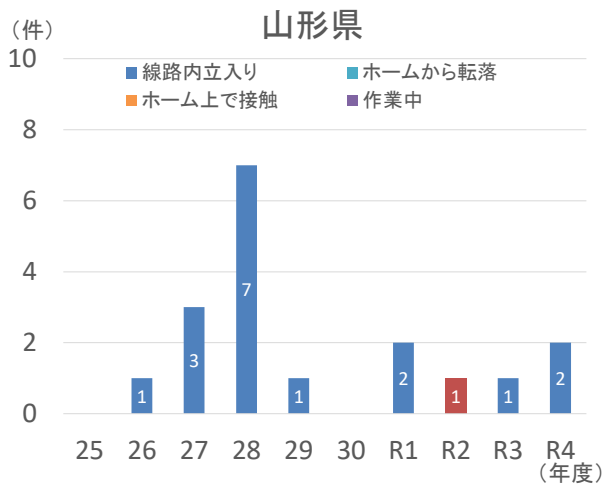
※　鉄道人身障害事故とは、列車等の運転により人の死傷を生じた事故をいいます。（列車衝突事故・列車脱線事故・列車火災事故・踏切障害事故及び道路障害事故に伴うものは除く。）

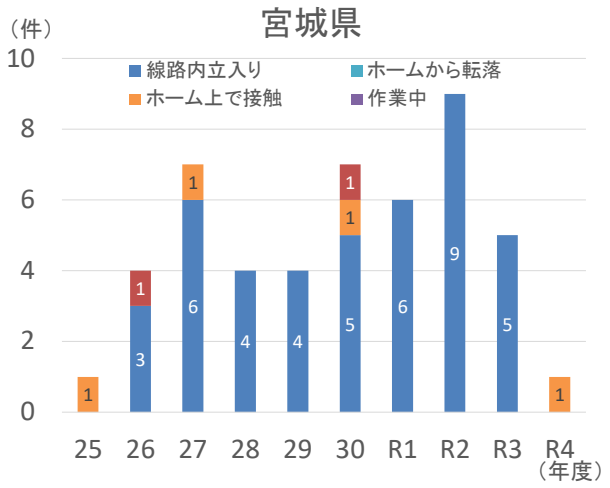
（２）原因別発生件数（県別）

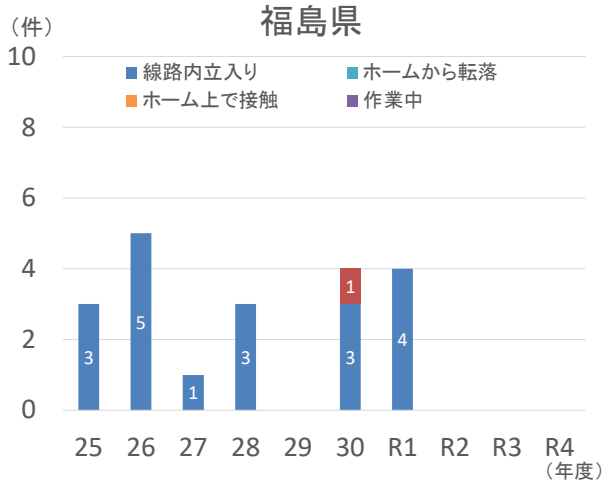










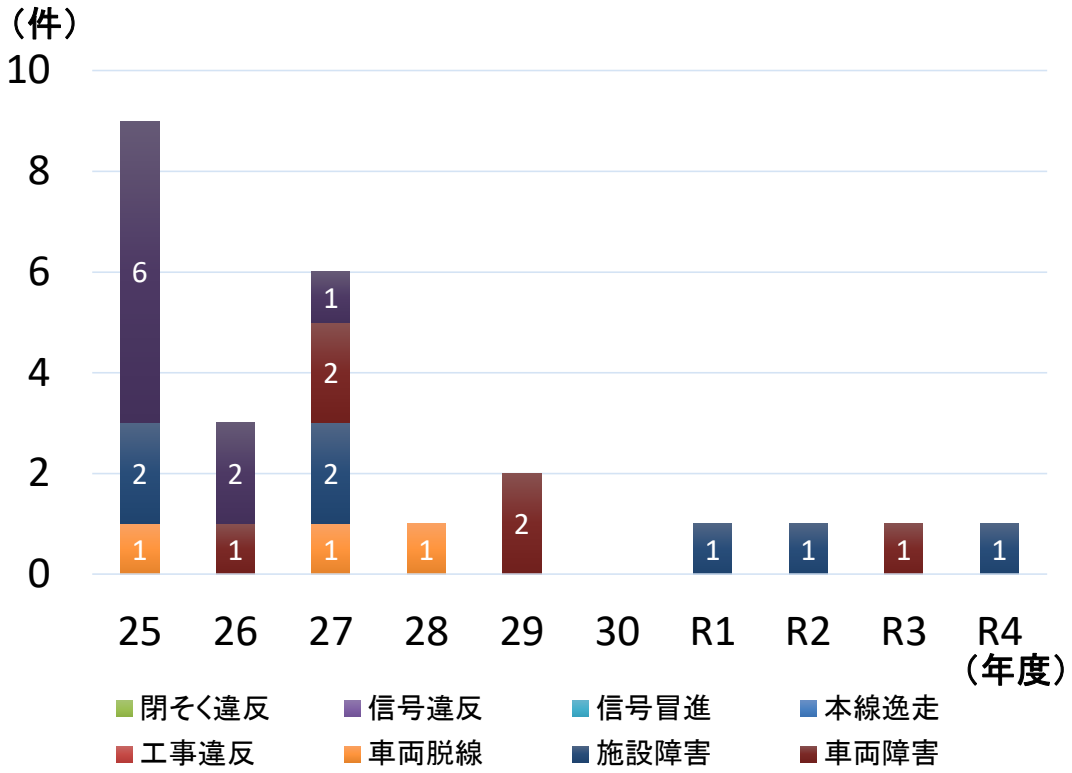


グラフの凡例の分類は以下のとおりです。

線路内立入り　：線路内に立ち入った公衆が列車等と接触したもの
ホームから転落：旅客等がホームから線路上に転落して列車等と接触したもの
ホーム上で接触：旅客等がホーム上で列車等と接触したもの
作業中　　：鉄道係員が業務中に列車等と接触したもの

４．インシデント（東北地方）

令和４年度のインシデント（運転事故が発生するおそれがあると認められる事態）は１件であり、対前年度±０件となっています。

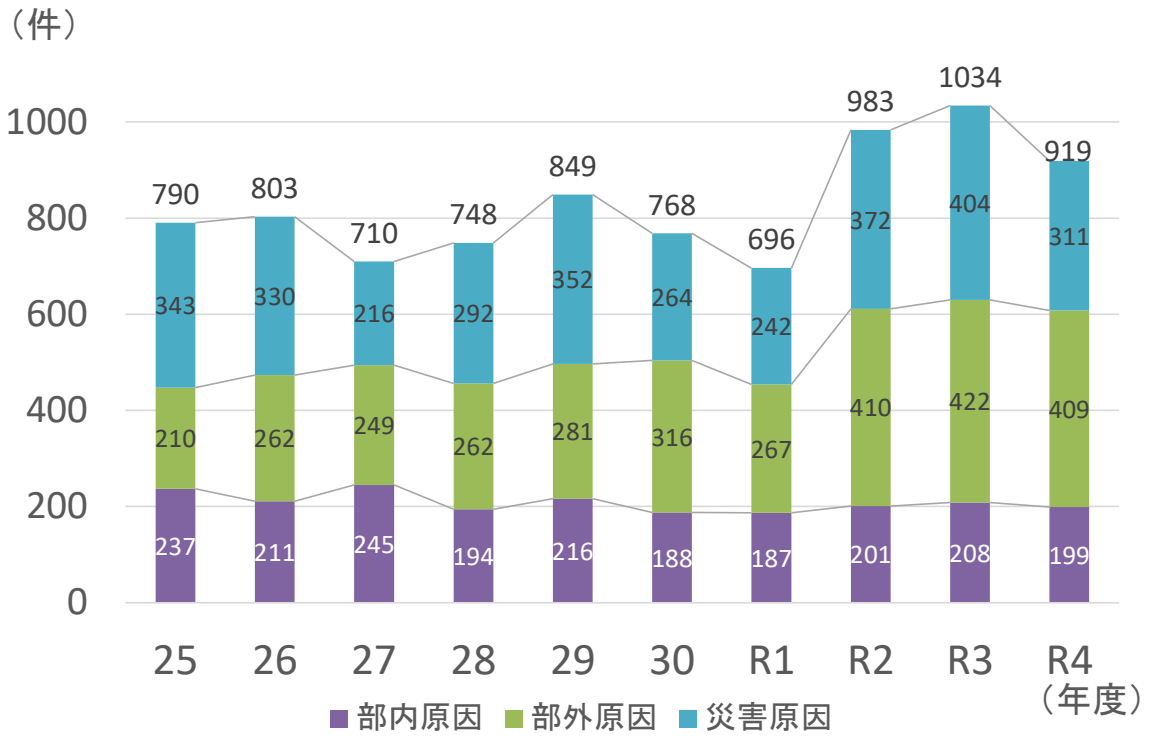


閉そく違反	閉そくの取扱いを完了しないうちに、当該閉そく区間を運転する目的で列車が走行した事態
信号違反	列車の進路に支障があるにもかかわらず、当該列車に進行を指示する信号が現示された事態又は列車に進行を指示する信号を現示中に当該列車の進路が支障された事態
信号冒進	列車が停止信号を冒進し、当該列車が本線における他の列車又は車両の進路を支障した事態
本線逸走	列車又は車両が停車場間の本線を逸走した事態
工事違反	列車の運転を停止して行うべき工事又は保守の作業中に、列車が当該作業をしている区間を走行した事態
車両脱線	車両が脱線した事態であって次に掲げるもの イ　本線において車両が脱線したもの ロ　側線において車両が脱線し、本線を支障したもの ハ　側線において車両が脱線したものであって、側線に特有の設備又は取扱い以外に原因があると認められるもの
施設障害	鉄道線路、運転保安設備等に列車の運転の安全に支障を及ぼす故障、損傷、破壊等が生じた事態
車両障害	車両の走行装置、ブレーキ装置、電気装置、連結装置、運転保安設備等に列車の運転の安全に支障を及ぼす故障、損傷、破壊等が生じた事態
危険物漏えい	列車又は車両から危険品、火薬類等が著しく漏えいした事態
その他	前各号に掲げる事態に準ずる事態

５．輸送障害（東北地方）

令和４年度における輸送障害は、９１９件発生しており、対前年度１１５件（１１．１％）の減少となっています。このうち、鉄道係員、車両又は鉄道施設に起因するもの（部内原因）は、１９９件で対前年度９件（４．３％）の減少、線路内立入り等による輸送障害（部外原因）は、４０９件で対前年度１３件（３．１％）の減少となっています。

また、風水害、雪害、地震等の自然災害によるものは、３１１件で対前年度９３件（２３．０％）の減少となっています。



※　輸送障害とは、輸送に障害を生じた事態であって、運転事故以外のものです。
　ただし、列車の運転を休止したもの（工事、保守等により計画的に運休する場合であって、事前に利用者に周知されたものなどを除く。）又は旅客列車にあっては３０分以上、旅客列車以外の列車にあっては１時間以上の遅延を生じたものに限っています。

グラフの凡例の分類は以下のとおりです。

部内原因：鉄道係員、車両又は鉄道施設に起因するもの

部外原因：線路内立入り、動物との衝突等に起因するもの（部内原因及び自然災害以外のもの）

災害原因：風水害、雪害、地震等の自然災害に起因するもの

なお、自然災害による輸送障害（災害原因）は、１事業者の１つの事象（台風、地震等）における運休や遅延を１件と計上しています。